施設関係者評価報告書令和４年度　施設関係者評価報告書

認定こども園常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園

Ⅰ．本園の教育目標

「ゆたかなこころ」と「たくましいからだ」をもち、主体的な幼児の育成をめざす
〇力いっぱい遊ぶ明るく元気な子ども　〇なかよく助け合って遊べる子ども
〇心の優しい子ども　〇素直に表現する子ども
〇よく見、よく聞き、よく考え、自分の力でやりぬく子ども

評価基準
Ａ　計画を上回った実績となった
Ｂ　計画通りの達成となった
Ｃ　計画をしたが実績として達成しきれないことがあった
Ｄ　計画を達成できなかった

Ⅱ．教育・保育における研究テーマ

◎「主体的に活動できる子どもを新園舎で育てる」
◎「教師間の連携の充実を図り、保育や仕事の効率化につなげる」

Ⅲ．令和４年度の教育・保育指標及び実績、評価について

１．園児の確保

（１）園児数、学級数（令和４年５月１日現在）

歳児	認可定員	認可定員内訳	実員内訳	実員合計	前年度末比較	組数	自己評価
満３歳児	２１０	―	―	―	―	―	Ａ
３歳児		５４	５４	５４	５２	３	
４歳児		６０	６０	６０	６１	２	
５歳児		６０	６０	６０	５９	２	
合　計		１７４	１７４	１７４	１７２	７	

※満３歳児は９月より入園。２月末現在６名在籍。

評価指標	具体的な内容	令和４度実績	自己評価
（２） 園児の確保の方法	・１号認定児の定数獲得 ・２号３号認定児についての市との調整	・認定こども園への移行に伴う体制の変更、本園の教育・保育、環境や遊びの大切さについて、入園説明会を土曜（予約制）にも開催し入園児募集広報を行った。従来の集団説明会に加え、個別対応での相談会も実施することで、園を身近に感じ好きな遊びから学ぶ教育方針への共感を得るきっかけになるよう丁寧に行った。 ・市と連携し、２、３号認定児の定員確保を行った。認定こども園の良さと、質の高い教育・保育を目指していることを広めるとともに、市の利用者調整の時期の分散に合わせて順次、施設見学や説明を実施している。パワーポイントを利用し園の説明を見て聞いてもらうことで個々の必要な情報提供できた。	A
（３） 入園選考方法 令和５年度募集	・入園決定方法の保護者周知	・１号認定：入園相談会を行い、本園の教育内容や教育方針、認定こども園としての本園のあり方について理解したうえで入園を希望した者について入園願書を受け付けた。未就園児ニコニコ参加者と在園きょうだい関係、次いで修了児きょうだい関係を優先とし、残りの枠を先着順に受け付けた。少ない枠が予測されたため、前日から並んで待つ世帯もあり、今後の選考方向の検討が必要となってきている。 ・２、３号認定：市で利用決定後、親子面接にて子ども観察を実施した。	A

２．教育、保育の推進

（１） 主体的に活動できる子どもを新園舎で育てる	・新園舎での子どもの動線を活かした環境づくりに努める ・主体的に遊びを進める中での子どもの育ちを明確にする	・新園舎で子どもが安心安全に過ごせるよう子どもの自発的な動線から職員間で連携を密にしてきた。子どもと約束を考え合う機会を設けたり表示を見直したりするなど環境構成に努めた。 ・各クラスの日常の写真や子どもの心の動きや友達とのかかわりの様子を丁寧に見つめたエピソードを集め、10 の姿をもとに育ちを読み取り子ども理	B

	・生活経験を豊かにし自主性を育てる	解につながるよう定期的に話し合った。主体性、非認知能力の育成と教師の働きかけについて、実際に高美幼稚園の保育見学をした講師による園内研修を実施した。「子どもの今、もっている力」を見極め環境の再構成をする大切さを学んだ。 ・地域のオーケストラの音楽演奏や人形劇鑑賞、遊びのスペシャリストなど多様な専門家を迎え、刺激となることで園児の遊びがつながり、深まるきっかけづくりを行った。 ・園内で栽培する季節の野菜など、継続した観察や子ども自身による世話ができる環境を充実させることで、より心が揺さぶられる姿や育ちが見られた。	
（２） 教師間の連携の充実を図り、保育や仕事の効率化につなげる	・職員室の完成ができたことで共通理解や連携の方法を改善する ・付属園で連携をとり合同で研修する場を設け、保育内容や保育環境、保育者の意識の向上に努める ・インクルーシブ教育について臨床心理士を交えて園内研修を実施する ・保護者へ幼稚園の取り組みについて発信する方法を工夫する	・職員室にホワイトボード、計画案等の掲示ボードを設置したことで、勤務時間の異なる職員や担任外の保育者の連携を効率よく共通理解できるようになった。特に、工事エリアとの連絡内容やヒヤリハット事例の即日周知が明確になったことで、短期の保育計画の柔軟な変更や充実につながった。 ・付属園合同の研修会については大人数での定期的な開催はコロナ拡大により難しい状況であったが、認定こども園移行に向けて、付属園の乳児担当者を講師に招いて研修会を行った。カリキュラムや実際の乳児保育室での動線検討など考え合い、今後の環境構成の充実につながった。 ・インクルーシブ教育の推進において、次年度は担任だけでなく日常的に子どもとかかわる兼任教諭の園内研修を計画し、一人一人が過ごしやすい環境と指導方法をより充実させていきたい。 ・コロナ拡大と工事エリアの影響で保護者全員が集うことができず、参観や降園時の発信が制限されたことから、園での子どもの育ちをより発信できるクラスごとのブログを開設した。子どもの遊びや行事の見どころ等を保護者に感じ取ってもらえるよう発信回数を増やし写真数を増やした。コロナが落ち着いた２学期後半より、保護者の要望により途中から参観を実施	B

		したり、個人懇談会の１人１人の時間を長くとったり工夫してきた。個別の質問や参観後の評価、行事ごとのアンケートなどより多く聞かれるようになった。	
（３） 安全に生活する力を育てる	・さまざまな災害を想定した避難訓練を実施する。 ・コロナとの共存、新しい生活環境で子どもの育ちに応じた環境を整える	・予告なしの避難訓練を増やし、それぞれの災害に応じた適切な避難方法、新園舎での避難経路について、教職員が再確認した。今後、新園舎での安全マニュアルを確立しそれぞれの教職員で安全対策の周知を行いたい。 ・「大阪モデルに伴う茨木高美幼稚園のコロナ対応マニュアル」を作成し各家庭にも配布した。感染拡大の状況に合わせてたマスク着用等の園生活対応の周知に努めた。子どもが咳が出るときは自分でマスクを着用したり、間隔を空けて並んだりするなど、新しい生活様式が定着している。	B
（４） 地域に必要とされる幼稚園をめざす	・子育て支援事業の充実 ・未就園児親子園庭開放「ピヨピヨ」 ・未就園児親子クラス「ニコニコ」 ・　預かり保育の充実「パオパオ」 ・和太鼓の取り組み（５歳児）	・園庭開放「ピヨピヨ」は、コロナ感染拡大と新園舎園庭工事の為、１年間,開催を見合わせた。 園庭開放を楽しみにしている方も多く、次年度は感染予防を図りながら将来的な園児獲得の努力も行う必要性を感じている。 ・親子クラス「ニコニコ」は募集対象児は、他の幼稚園・保育所に在籍していない幼児とし、火・金クラスを設け、各６名とした。従来の２クラス制を１クラスにした。少人数で丁寧で安定した開催を心がけてきた。園生活への憧れや我が子の育ちのイメージをもって、６名全員が入園を希望している。 ・預かり保育「パオパオ」利用者の増加に伴う、保育者の獲得、保育利用時間の管理のためのシステムの導入、長時間児を迎える落ち着いた環境など、担当者だけでなく、園全体で考える必要を感じる。就労をする保護者にとっては保護者の参加行事も早期に職員が周知しておくことで参加できるため、コロナで中止していた年間計画の周知を再開したい。 ・再開した地域行事には各家庭の意向に沿いながら、積極的に参加してきた。保護者参観や竣工式のオープニング和太鼓演奏など、５歳児が自分たちの演奏を聴いてもらう機会を意識的に作ってきた。毎年開催される和太鼓講師の	B

	・小中学校との連携	指導する高校生和太鼓部定期演奏会の招待については迫力ある演奏を聴く貴重な体験であるため、今後も体験できるよう連携を図りたい。 ・地域の小中学校や療育機関などの外部との専門機関との交流会へ積極的に参加し、幼稚園と地域の取り組みについて意見を交わし本園の教育力の向上につなげた。担当、担任の関わり方や意見交換に要する時間は課題となる。 ・東奈良小学校地区の避難場所、災害時の対策について日常的に連携を深めてけるよう努めた。	

Ⅳ．令和 4 年度施設関係者評価委員による評価シートより（令和 5 年度 3 月 22 日施設関係者評価委員会実施）

・「主体的に活動できる子どもを新園舎で育てる」の評価はＢとなっているが、Ａとしても良いのではないか。（地域の方、保護者より）
・園舎建替え、コロナ感染症拡大の影響を受けながら、教職員の苦労を感じられた。制限のある中で今できることをたくさん経験させていただき感謝している。（5 歳児保護者より）
・遊びのスペシャリストの経験は子どもの心を揺さぶっている。茨木高美幼稚園を卒園した兄姉が小学校に行っても、あやとり、コマ、自由製作など幼稚園での経験が今も生きている。（5 歳児保護者より）
・認定こども園になっても教職員の負担は増えるが、変わらず元気な「たかみっこ」を育ててほしい。（5 歳児保護者より）
・コロナが明けて次年度は、幼稚園と小学校の連携についてどうなっているのかを知りたい。（地域の方より）
・日常、保護者に見えない幼稚園の取り組みがよく分かった。委員会で聞いた日常の保育の記録写真の公開の意図や告知なしの避難訓練の実施で実践に備えていることなど、保護者にもっと啓発していってほしい。（4 歳児保護者より）
・今までの幼稚園としての伝統を活かし、地域のこども園として頑張ってほしい。（3 歳児保護者、地域の方より）
・行事予定を早く知らせてほしい（3 歳児保護者より）
・教職員の仕事の効率化の実践（ホワイトボードの設置と即時印刷）、ICT 活用など、実績内容が明確で取り組みが分かった。（学園関係者より）